

学会彙報 , 奥付

雑誌名	漢文學會々報
巻	17
ページ	51-55
発行年	1957-06-30
URL	http://hdl.handle.net/2241/00148316

未及竟、左顧勅中厨、促令辦粗飯、慎莫使稽留、廢禮送客出、盈盈府中趨、送客亦不遠、足不過門樞、取婦得如此、齊姜亦不如、健婦持門戶、勝一大丈夫、(玉臺新詠一・樂府詩集三七)

〔注記〕隴西行の始め八句は、後の句と意味上連絡せず、相和歌でいう態であったとみられる。八句の中、終りの二句を除く六句は、樂府詩集三七に引く歩出夏門行古辭の末に、そのまま用いられている。そして歩出夏門行の方においては、その六句が意味上欠くべからざる位置を占めている。明の梅鼎祚の古樂苑一九にいう、隴西行の始め八句は、歩出夏門行古辭に続くべきものである、と。従うべき見解であろう。隴西行はその歌い始めにおいて、歩出夏門行古辭の末尾を襲として歌ったものであると思ふ。

13 〔三婦豔詩〕大婦織綺羅、綺羅、一作綺、作、挾瑟上高堂、瑟、一作羅綺、中婦織流黃、小婦無所爲、爲、未遽、樂府詩集三四、相逢行末尾、樂府詩集三五、長安有狹斜行末尾、玉臺新詠一、相逢狹路聞行末尾

〔注記〕樂府詩集三〇、平調曲の解題において、この部分をとくに三婦豔詩といひ、時にはこの部分だけ独立して歌われる場合もあったよし、記されている。

14 〔豔歌遺句〕妍歌展妙聲、發曲吐令辭、(古樂苑三二)

15 〔豔歌羅敷行〕日出東南隅、照我秦氏樓、秦氏有好女、自名爲羅敷、云云、(以下省略) (宋書樂志三、作豔歌羅敷行、玉臺新詠一、作日出東南隅行、樂府詩集二八、作陌上桑、云、一曰豔歌羅敷行、太平御覽八二五、資產部五、作古豔歌)

16 〔古豔歌〕孔雀東飛、苦寒無衣、爲君作妻、中心惻悲、夜夜織作、不得下機、三日載足、尚言吾遲、(太平御覽八二六、資產部六・古樂苑五〇)

附6 〔後漢焦仲卿妻劉氏、爲姑所遣、時人傷之、作詩曰〕孔雀東南飛、五里徘徊、十三能織綺、十四學裁衣、十五彈箏篋、十六誦書詩、十七嫁爲婦、心中常苦悲、君既爲府史、守節情不移、雞鳴入機織、夜夜不得

息、三日斷五疋、大人故言遲、非爲織作遲、君家婦難爲、妾有繡服襦、葳蕤金縷光、紅羅複斗帳、四角垂香囊、交文象牙簾、宛轉素絲繩、鄙賤雖可薄、猶中迎故人、(藝文類聚三二、人部一六)

〔注記〕玉臺新詠一に載せられている焦仲卿妻は、文字に若干の異同があるほかに、「守節情不移」の次に、「賤妾守空房、相見常日稀」の二句があり(ただし同じ玉臺新詠でも、覆宋明刊本はこの二句を闕く)、「君家婦難爲」のあとに、七十句の挿入があり、「交文象牙簾」以下の末尾の四句を、「箱籠六七十、綠碧青絲繩、物物各自異、種種在其中、人賤物亦鄙、不足迎後人」に作る。こうしたところから、藝文類聚に載せる焦仲卿妻は、このものがたりうたが完成されていく過程の姿を、あるていど示していると考えられる。なお藝文類聚にいう「葳蕤金縷光」は、玉臺新詠にいう「葳蕤自生光」と異なり、玉臺新詠には見られない「交文象牙簾、云云」の句も藝文類聚には示されているが、藝文類聚記載の形で歌われたものもあつたであろうことは、太平御覽に藝文類聚と同一の句が引かれていることによつて明かにされる。太平御覽にいう。

古詩曰、妾有繡服襦、葳蕤金縷光。(太平御覽六九五、服章部二二) 古詩曰、交文象牙簾、婉轉青絲繩。(太平御覽七〇五、服用部七)

学 会 彙 報

○昭和三十年度漢文学会総会次第(六月十九日)

△研究発表之部▽

- 一、神宮文庫本「五行大義背証」に引存する東宮切韻佚文について 中 村 璋 八 氏
- 一、魯人精神と宋人精神について 緒 形 暢 夫 氏
- 一、稽康の声無哀楽説について 水 沢 利 忠 氏
- 一、相和歌辭にみる歌謡文学の特性 鈴 木 修 次 氏

一、論語と日本文学——引用文の源流についての考察——

- 一、「哀公問於有若」章の解釈について
 新美保秀氏
 二、大宰春臺の詩文論
 裏善一郎氏
 松下忠氏

△総会之部▽

- 一、議事
 ○庶務報告 緒形委員
 ○編輯報告 今井委員
 ○会計報告 鎌田委員
 ○昭和三十一年度漢文学会総会次第(六月十七日)

△研究発表之部▽

- 一、「卜辭「馭蠶」の一考察」
 青木木菟哉氏
 二、「唐代小説のロマンチズムと庶民について」
 内山知也氏
 三、「豔歌について」
 鈴木修次氏
 四、「魏晉玄学の系譜に関する一考察——荊州の学とその波及するところ——」
 加賀栄治氏
 五、「莊子より列子への黄帝説の展開」
 安居香山氏
 六、「正平版論語源流の一考察」
 新美保秀氏
 七、「五行の数について」
 今井宇三郎氏
 八、「王世貞の古文辭説脱化」
 松下忠氏
 九、「講演 古文尚書について」
 小林信明氏

昭和二九年度会計報告

収入	二九年度分	八〇名	三二、八〇〇
会費	一般會員	二九年度分	八〇名
	三〇年度分	一名	四〇〇
学	生	二九年度分	二三名
	三〇年度分	三名	六〇〇
先年度迄の還納			一三、八〇〇

雜誌広告料 一〇、〇〇〇
 利子 一六一

支出 六二、三六一
 前期繰越金 三、二九四
 慶弔費 三四五
 会報発行費 四五、〇〇〇
 通信費 一〇、四九一
 事務用品 一、一九〇
 合費 二、八一〇
 差引 六三、一三〇
 三〇年度に繰込 (一)、七六九

- 学会月例会(毎月第三土曜、午後二時、E二二二)
 ○十月例会(昭和三十年十月二十九日)
 雜誌会 范寧「論魏晉時代知識分子的思想分化及其社会根源」(歴史研究)
 李長之「中国文学史略稿」 鈴木修次氏
 発表会 魏晉学術思想家の意識基底に関する一考察 加賀栄治氏
 ○十一月例会(十九日)
 雜誌会 Karlgren: Compendium of phonetic in Ancient Chinese. 1934. 坂井健一氏
 発表会 漢碑漢簡の資料価値 内野蕉一郎氏
 ○十二月例会(十七日)
 雜誌会 中国仏教協会編「現代仏学」 安居香山氏
 吉岡義豊氏「道經經典史論」 安形暢夫氏
 発表会 漢碑より見たる後漢末の老子思想について 緒形暢夫氏
 ○一月例会(昭和三十一年一月二十八日)
 雜誌会 東洋思想研究第六(早稲田大学) 中村璋八氏

発表会 劉歆の分野説について 鎌田正氏

○二月例会(十八日)

雑誌会 「歴史研究」に見える胡適批判について 今井宇三郎氏

発表会 論語為政篇の孝平性について 小林信明氏

○十一月例会(二十四日)

発表会 袂字考 河野六郎氏

○十二月例会(十五日)

雑誌会 漢代白虎親宗教會議与神学法典白虎通義

(侯外廬、歴史研究一九五六、五)

中国の仙人——抱朴子の思想——(村上嘉実、サーラ叢書)

発表会 呉歌西曲における「儂」について 安居香山氏

一月例会(昭和三十一年一月十九日) 鈴木修次氏

雑誌会 最近の中国における王充の評価について(歴史研究、哲学研究)

嵇康について(大倉山学院紀要、第二輯)

発表会 鄭玄訓詁に関して 木村郁二郎氏

二月例会(十六日) 月洞讓氏

雑誌会 楊樹達「論語疏」について 原田悦穂氏

発表会 釈春 小嶋政雄氏

○四月例会(二十日)

雑誌会 木村英一氏「中国固有の思想に於ける捨身と祈り」とについて

(同志社大、第十一輯)

重沢俊郎氏「支那古代に於ける合理的思惟の展開」

(同右、第四輯)

佐藤武敏氏「鄭の子産に就いて」(文化、武内博士記念号)

発表会 「北」音考 緒形暢夫氏

○五月例会(十八日) 望月真澄氏

雑誌会 上原淳道「中国文字学における仮借について」

発表会 中国笑話史考

○卒業論文題目

昭和三十年度学部卒業生

一、王維の詩に於ける自然描写

——その表現精神に及ぼせる仏教思想の影響

一、則天去私考

一、韓非の法治主義と其の限界

一、屈原研究

一、菅原道真の詩について

一、詩経に顕れたる民俗生活について

一、李卓吾思想研究

一、釈名の音韻学的考察

一、郭沫若文学研究

一、頼山陽の詩について

昭和三十一年度学部卒業生

一、王勃の詩について

一、郁達夫研究

一、礼運篇大同小康説と先秦諸家との関係

一、金聖歎の批評精神

——第六才子書を中心として——

一、巴金文学の成立

一、婚姻の年令時月に関する王鄭論の研究

一、荀子の教育思想

一、王弼の思想研究

一、介詞の研究

一、先秦道德思想における思惟様式の発展

水沢利忠氏

前野直彬氏

飯田久夫君

河田洋昭君

菊野俊熙君

草壁喜一郎君

設楽武志君

千葉義明君

中野達君

藤田潤一君

松平和久君

真野洋司君

飯塚秀典君

伊藤虎丸君

岩淵房夫君

江見真尋君

大野勉君

奥山浩君

川村劔次君

木村昌洙君

戸井田行世君

高橋信一郎君

一、鄭の子座に関する一考察

一、丁玲論

一、講周易疏論家義記殘卷に関する研究

一、伝習録考

——王陽明における大学の格物致知論を中心にして——

一、唐代伝奇小説の研究

一、「蝕」三部作について

一、日本近世儒学史研究

——新井白石をめぐって——

一、韓非子研究

一、莊周の实在観とその展開

○昭和三十三年漢文学関係講義

(1) 一般教養科目

小林 教授 漢文学講読(思想)

鎌田助教 〃 (文学)

(2) 一般語学

牛島助教 中国語一、二(講読)

〃 中国語一 (文法、作文)

北浦 講師 中国語一、二(講読)

陳 講師 中国語二 (会話)

(3) 専門科目

小林 教授 中国思想史

〃 中国哲学演習(書経)

内野 教授 中国哲学概論並特講

〃 中国哲学演習(諸子)

〃 中国哲学講読

河野助教 中国言語学特講

〃 中国言語学演習(漢字論)

豊島雄幸君

西岡晴彦君

藤原高男君

村田勸持君

安居総子君

三玉宜晃君

三宅正彦君

山田良輔君

上川顕栄君

前野助教 中国文学史(明以後)

〃 中国文学講読(唐人伝奇)

〃 中国文学演習(丁西林)

鎌田助教 日本漢文学演習

〃 中国哲学演習(左伝)

牛島助教 中国言語学講読(現代語法)

小野 講師 日本漢文学史

水沢 講師 史記講読

陳 講師 中国語学講読

(4) 大学院

内野 教授 経子資料学講読

小林 教授 王注老子講読

鎌田助教 漢学師承記講読

河野助教 中国音韻学特講

牛島助教 中国言語学講読

前野助教 中国文学特講(小説論)

小野 講師 中国上代文学特講

漢文学会々報 第十七号

昭和三十三年六月二十五日 印刷
昭和三十三年六月三十日 発行

(非売品)

編輯者

東京教育大学 前野直彬

印刷所

漢文学会 緒形暢夫

東京都千代田区神田小川町二ノ四
三松堂印刷株式会社

発行所

東京都文京区大塚窪町二四
東京教育大学漢文学会
振替東京四七六〇〇番